



スーパーグローバルハイスクール

2年普通科グローバルコース
「京都の風土・世界の風土」

難民問題から考える

難民問題から考える（授業構成）

1. 「難民」から考える
2. 「難民の現状」から考える
3. 「国際社会の対応」から考える
4. 「日本が難民を受け入れる意義・意味」から考える



朝日新聞デジタル > 記事 有料記事

クルド独立、あす住民投票 イラク

2017年9月24日05時00分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷

紙面プラス 一覧



「国を持たない世界最大の民族と呼ばれるクルド人を主体とする。イラク北部の自治政府、クルディスタン地域政府（KRG）は25日、イラクからの独立の賛否を問う住民投票を行う。KRGのバルザニ大統領は22日、「首都」アルビルで開かれた独立賛成派の集会で演説。「投票は（イラク政府への）従属か自由かの選択…

イラク北部アルビルで22日に開かれた独立賛成派の集会。参加者がKRGの旗を掲げて独立の実現を訴えた。杉本康弘撮影

1. 「難民」から考える

ワーク1-①

「移民」と「難民」の違いを考えて、「難民」を定義してみよう。また、「難民」という言葉の使用例も挙げ、「難民」のイメージを話し合ってみよう。

「経済難民」「環境難民」「ネットカフェ難民」「買い物難民」「保育園難民」…

世界難民の日

東京・表参道駅で写真展示

毎日新聞 2016年6月20日 11時07分 (最終更新 6月20日 14時45分)

難民問題記事 > 社会 > 毎日新聞 > 話題 > 速報 >



「難民雇用」をユニクロ事業で展開

UNHCRとのグローバルパートナーシッププログラムの一環として、国内ユニクロ事業では、日本で難民認定を受け、定住が認められた難民とその家族を対象に、就業体験の場を提供することで、自立を支援する難民雇用プログラムを行っています。



2011年に開始して以来、受け入れ人数の拡大を図るとともに、雇用後のサポートにも注力しています。たとえば、サステナビリティ部などが店舗を訪問し、仕事の不安や今後のキャリアについてアドバイスを行うなどしています。また当プログラムを通じて入社した従業員が本社に集まり、当人同士による悩み相談や、ベストプラクティスの共有を行うスタッフコンベンションを、定期的に開催しています。2016年1月に開催したコンベンションでは、売り場や素材について知識を深めたり、キャリアアップに向けて目標やアクションプランを立てる研修などを実施。また店長同士の意見交換も行い、「難民雇用」について理解促進を図っています。

単に雇用するだけでなく、長く働けるようサポートも行うこの取組みは、日本に定住する難民の自立支援を行うFPOH支援センター(難民事業本部)からも、高い評価をいただいております。今後も、取組み拡大を目指していきます。

▶「難民雇用プログラム」で入社した従業員のストーリーはこちらをご覧ください

<http://www.fastretailing.com/jp/sustainability/community/refugeesupport.html>

1. 「難民」から考える

ワーク1-②

コラム「「難民」として日本で暮らした経験から思うこと」(ミヨウ・ミン・スウェ)を読みましょう。

出典：滝澤三郎・山田満 編

『難民を知るための基礎知識』
明石書店2017年

1. 「難民」から考える

ワーク1-③

コラムを読んだうえで、もう一度「移民」と「難民」の違いを考えて、「難民」を定義してみよう。

1951年の「難民の地位に関する条約」では、「人種、宗教、国籍、政治的意見または特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々と定義されている。今日、難民とは、政治的な迫害のほか、武力紛争や人権侵害などを逃れるために国境を越えて他国に庇護を求めた人々を指すようになっている。また、紛争などによって住み慣れた家を追われたが、国内にとどまっているかあるいは国境を越えずに避難生活を送っている「国内避難民」も近年増加している。

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR: United Nations High Commissioner for Refugees)
http://www.unhcr.org/jp/what_is_refugeeより

1. 「難民」から考える

ワーク1-③

コラムを読んだうえで、もう一度「移民」と「難民」の違いを考えて、「難民」を定義してみよう。

略定義 何らかの理由で居場所を追われ、
国境を越えて移動せざるを得ない人々。

青のみなら「国内避難民」も該当
緑のみなら「移民」も該当

1. 「難民」から考える

歴史的経緯 (20世紀以降)

約100年前

- 第一次世界大戦 (1914~18年) 後
新たな国民国家の誕生相次ぐ
→この過程で多くのマイノリティー (少数民族など) が、民族浄化され多数の難民発生
- 第二次世界大戦 (1941~45年) 後
植民地の宗主国からの独立相次ぐ (約70年前)
(アジア・アフリカ中心)
植民地時代の人為的国境線による矛盾噴出
→紛争が多発し、多数の難民発生 (1950年 UNHCR設立)

1. 「難民」から考える

歴史的経緯 (20世紀以降)

約30年前

- 東西冷戦終結 (1989年) 後
=米ソ二極構造の崩壊
超大国の power・presence 低下
→内戦、地域紛争多発し多数の難民発生
ideology の対立から identity の対立へ



1. 「難民」から考える

ワーク1-④

今の段階で自分にできそうなことを考えてみよう。

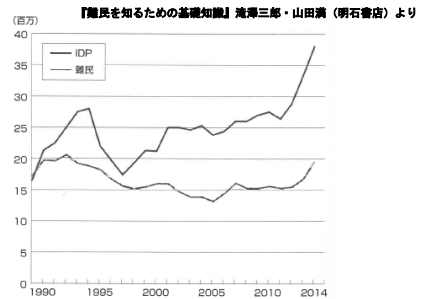
ワーク1-⑤

これから知りたいことをあげてみよう。

2. 「難民の現状」から考える

資料 I

難民・国内避難民 (IDP) 数の推移



2. 「難民の現状」から考える

資料 II 難民発生国と難民受入国上位10件

難民の数 (2015年末時点、上位10件)		難民受け入れ数 (2015年末時点、上位10件)	
発生国	人数	受け入れ国	人数
シリア	4,850,792	トルコ	2,541,352
アフガニスタン	2,662,954	パキスタン	1,561,162
ソマリア	1,123,022	レバノン	1,070,854
南スーダン	778,629	イラン	979,437
スーダン	622,463	エチオピア	736,086
コンゴ民主共和国	541,291	ヨルダン	664,118
中央アフリカ	471,104	ケニア	553,912
エリトリア	379,766	ウガンダ	477,187
ウクライナ	321,014	コンゴ民主共和国	383,095
ベトナム	313,155	チャド	369,540

『難民問題』 轟田桂 (中央公論新社) より

2. 「難民の現状」から考える

ワーク2-①

資料 I から読み取れることをあげてみよう。

ワーク2-②

資料 II とエスカリエから、難民発生国の特徴をあげてみよう。

ワーク2-③

資料 II と地歴高等地図から、難民発生国と難民受入国との関係性を探ってみよう。

2. 「難民の現状」から考える

資料 III ヨーロッパ (EU) への入域ルート



「3つの入域ルート」 『難民を知るための基礎知識』 滝澤三郎・山田真 (明石書店) より

2. 「難民の現状」から考える

ワーク2-④

資料 III を参考にして、難民がヨーロッパ (EU) に入域する理由を考えてみよう。

また、ドイツが難民にとっての理想の目的地とされた理由も考えてみよう。

2. 「難民の現状」から考える

EUが引き寄せる要因 pushとpull

- ①地理的に近接していること
- ②歴史的な接点があること
- ③同胞の先駆者によるネットワークがあること
- ④言語に比較的馴染みがあること
- ⑤非合法的なルートを含め、交通網が整備されていること
- ⑥経済・社会的な展望がもてること
- ⑦海難救助を含め、難民に対して人道的な姿勢が示されていること

3. 「国際社会の対応」から考える

資料IV

A. 2016年6月、移民・難民の受け入れに寛容なEUからの離脱を問う国民投票が実施され、離脱派が勝利した。その結果キャメロン首相が辞任し、(a)首相が就任した。

B. 2016年11月、不法移民対策としてメキシコとの国境に壁を築くことや、イスラム教徒の入国の一時的禁止を選挙で訴えた(b)大統領が就任した。

3. 「国際社会の対応」から考える

資料IV

E. 2017年10月、難民・移民受け入れに寛容であった(e)首相は、厳しい世論からの批判を受け、難民受け入れに年間20万人までという「上限」を設ける方針を示した。

2. 「難民の現状」から考える

黄金郷としてのドイツ

○1950年代以降の高度経済成長に伴い、外国人労働者受入に積極的であった

○歴史的な経緯（ナチスドイツ時代への反省）もあり、人道的観点から手厚い難民政策をとってきた

* さらに調べてみよう

シェンゲン協定（1995年発行）

3. 「国際社会の対応」から考える

資料IV

C. 2017年1月、(c)首相が、難民受け入れへの積極的な姿勢を表明した。



D. 2017年5月、大統領選挙において、難民・移民排斥を強く訴えるマリー・ルペンが、第1回投票で2位になり、(d)との決選投票にまで進んだ。

3. 「国際社会の対応」から考える

ワーク3-①

資料IVは、昨年からの国際社会での出来事を時系列でまとめた短文である。(a)～(e)に人物名を入れたうえで、各国の出来事を示すA～Eの短文が、それぞれどこの国の出来事かを考えよう。

3. 「国際社会の対応」から考える

ワーク 3-②

Cの国の首相が、このような立場を表明したのはなぜかを考えてみよう。また、あなたのグループがC国民であれば、首相の立場を支持しますか、あるいは支持しませんか。グループで、理由も含めて意志を統一してください。

3. 「国際社会の対応」から考える

資料 V

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) パンフレット



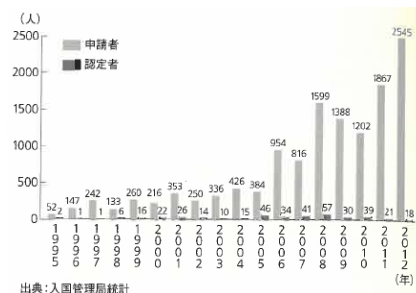
3. 「国際社会の対応」から考える

ワーク 3-③

資料 V から、国連の対応の限界について考えてみよう。

3. 「国際社会の対応」から考える

資料 VI 日本の難民申請者数・認定者数の推移データ

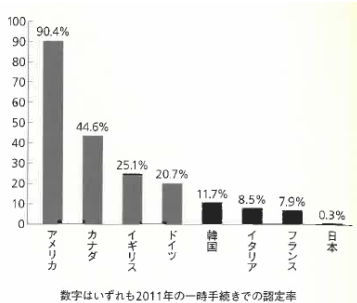


出典：入国管理局統計

『難民領国ニッポンのゆくえ』根本かおる (ポプラ新書) より

3. 「国際社会の対応」から考える

資料 VII 各国の難民認定率データ



数字はいずれも2011年の一時手続きまでの認定率

『難民領国ニッポンのゆくえ』根本かおる (ポプラ新書) より

3. 「国際社会の対応」から考える

ワーク 3-④

資料 VI・VII から、日本の対応状況を短文にしてみよう。

ワーク 3-⑤ 国連の対応の限界、欧米での対イスラム感情の悪化や難民保護の否定的見解等をふまえて、難民問題の抜本的解決策を考えてみよう。

3. 「国際社会の対応」から考える

ワーク 3-⑥

国際社会がとれる対処療法として、何が必要かを、難民の立場に立って考えてみよう。

また、受入国の立場に立った場合の問題点（限界）について考えてみよう。

4. 「日本が難民を受け入れる意義・意味」から考える

ワーク 4

国際社会の一員である日本社会（今の自分・将来の自分も含めて）が難民問題について考え、受け入れの是非等について議論する意義・意味について考えてみよう。

まとめ

最後のワーク

これまでの「難民問題から考える」の学習をとおして、自分自身の中で起こった変化についてまとめてみよう。